

'08 秋

2 日目：松阪～伊勢～新桑窯^{さらくわがま} 79km

< 伊勢路に光満ちて >

朝 4:00 にホテルを出る。今日は、この旅で最長の 79km だ。東海道や山陽道では、町が多いからどうにでもなるが、紀伊半島では、距離を合わせるのが大変だ。ちょうどの所に宿がないのである。まして知らない土地ではあるし、無理をせず 80km 以内とした。

まず松阪～伊勢の 20km は、県道 37 号線をほぼまっすぐ渡会橋まで走る。全日本大学駅伝のゴール手前にある、あの有名な「わたらい」橋である。この県道は、歩道はしっかり附いているものの、傾斜があったり工事中であったりなので、ゲリラ未明走に徹した。すなわち、対向車の来ない時は右車線の中央を走り、来た時はサッと歩道に逃れるというものだ。車道は何の障害物もないので、走り易いこと極まりない。「夜明けのラナウエイ(ボンジョビ)」てな気分だよ。

コンビニは点在するのだが、どうしたものか、おにぎりには食指が動かない。それよりも朝メシが食いたい。どんぶりメシに生卵をぶっかけて、熱い味噌汁といっしょに掻き込みたい。ところが、1 号線や 2 号線、10 号線にまでさらに在るファミレスは、伊勢路にはほとんどないじゃありませんか。仕方なく、焼きメンタイおにぎりを 1 個だけ腹に入れた。

やがて夜が白け始め、渡会橋に到着、何これ！6:00 じゃないか。速すぎる、20km を 2 時間で走っちゃあいかんちゅうの。ジャーニーではなくて、普通の練習になっちゃう。

宮川に架かるこの橋は、長さ 300m ほどだが、50m 置きに石灯籠が設置されており、神宮に近いことが分かる。まだ灯りが点いており、風情満点、神域に入ったような気がした。

橋を渡るとすぐ右折し、宮川の土手伝いに県道 22 号線と合流する。神宮には立ち寄らず、その裏側を通った。ほんとうは寄って行きたかったのだが、かなり時間をとられるので割愛した。代わりに適度な所で立ち止まり、神宮に向かって拝んだ。また来ることがあろうか。

間もなくして本日最後のコンビニ、サークルワンにやって来た。この先新桑までの 60km、コンビニはない。まずトイレ。ショック！ここのトイレは和式だ、思わず引いてしまう。しかし、ここでやっとかんと後がない。便意は空腹よりも走る意志を挫く。雉撃ちは極力したくない。

やっとの思いで用を足し、おにぎり 1 個と熱いお茶を買って、歩きながら食べた。ここで、フツーならおにぎり 2,3 個を買って、リュックに詰めておくのだが、うっかりしてやり忘れた。インターネット地図を使った予めのシミュレーションでは、ここで補給することになっていたのに何故か。きっと、トイレで一生懸命になり過ぎたからだろう。

宮川沿いに 10km 程遡り県道 65 号線に出会うと、そこから 30km 先の南島に出るまでは内陸の道だ。宮川の支流である一之瀬川と並行して進むが、この川もなかなか清冽で、時々歩を止めて眺めることを繰り返す。お地藏さんには必ずさい銭をあげて旅の安全を祈り、レトロなバス停の腰掛に座ってしばしボケーっとする。そこには、ジャーニーランにどっぷり浸かっている自分がいた。

鄙びた集落をいくつも通り、廃校になった小、中学校を片目に日本の少子化を憂いながら行く。上りは歩き、下りと平地は走るという燃費の良い走行だが、45kmを過ぎるとさすがにガス欠気味になってきた。無補給を悔やんでも後の祭り、自販のココアで繋ぐ。

南中村という地区の道端に無人販売所があった。何か喰える物はないかと覗いてみると、ありました。サツマイモ。早速頂き、齧りついた。芋は焼いても蒸かしてもおいしいが、生で食べるのが一番うまい。コリコリとした歯ごたえと、噛めば噛むほどジワーと出てくる甘みとが、一挙に空腹感を癒してくれる。野生の証明ってところですか。

今日の唯一の難所である野見坂にさしかかる。これをパスすれば南島に出て、新桑まで残り21kmだ。だらだらとした2km余りの坂を上り、1600mの新野坂トンネルに入った。初のトンネルだ。比較的新しいのに歩道が狭い。中の谷トンネルのと似ている。ここでもゲリラ走をやった。車が来ればサッと歩道に上がり、通り過ぎたら車道を走る。トンネル内はフラットだから走り易い。結局、歩道に上がったのは3回だけだった。対向車が3台だったのだ。中の谷でこんなことやったら死ぬわな。

すんなりと抜けて、もう一つ短いトンネルを抜けると、道方という所に下りる旧道が見つかった。その向こうは熊野灘だ。快いショートカット道だが、急坂過ぎて走ることは禁物である。そろりそろりと下って海に出た。ここで60km、なんとまだ10:30だ。あと20km足らずに4時間30分もかけなくてはならない。宿のチェックインが3:00だからである。急がなくてはならない時に急げなくて、急がなくてもいい時に急げてしまう。皮肉なもんだよ。ジャーニーは。

どこかで大休止をと思っているところ、国道260号線から50mほどに入り込んだ場所に小さなスーパーを目敏く見つけた。やれやれ、伊勢を出てから45km振りの店だ。ダダッと駆け込み、500mのスパードライと稲荷、巻き寿司8個入りの弁当を手に入れ、店の前の防波堤の上で食べた。ビールのおいしさよ、万歳！。そのまま日だまりの中で、30分まどろむ。気持よさこの上ない。ジャーニーならでこそできることだ。

休憩したせいか、足が前に前に進む。早くも残り10kmを切ったところで13:30、目の前に居酒屋があった。なんとタイミングのいいことだろう。いかにも寄ってらっしゃいと言ってるようだった。店の前にロードレーサーが2台止まっているし、寄っていかん手はあるまいと躊躇わずに入った。居酒屋ほど気軽に入れる処はない。生ビールと中華そばを注文し、サイクリストの2人と話し込む。一人の方は、自転車日本一周をすでに達成している人なので、話が大いに弾んだ。明日のコースの初っ端に、勾配20°以上の坂があるとの情報も得た。旅での出会いは、本当におもしろい。

いい気分になって8kmを1時間で片付け、15:30に新桑ロッジに到着、ご主人が早いのびっかりしていた。17:00が予定だったのだ。

新桑と書いてさらくわと読む。窯が付くのは、平家の落人がこの地に落ちて来た時、漁は許してもらえず海水を窯で炊いて塩を造り、生業としたことに由来するそうだ。

広い一戸建てのコテージが今日の宿である。広い風呂に浸かり、まずビール。洗濯機を回している間、10畳はある広間で大の字になって2時間ほど眠った。

18:30に晚餐とする。ご主人の創作料理にビールと箸が進んだ。特に鯛の燻製のサラダは

絶品であった。私がこのロッジを選んだのは、正にこの点にある。辺りには民宿がたくさんあるが、どこも活き造り等の魚料理ばかり出す。佐伯の魚をいつも食べていたら、他所の魚は食べたくないんだ。ここだけが、私の目に適った所だった。ビール 4 本飲んで¥8000-というのも満足だった。

海と山と満天の星。鹿と猿の鳴き声しかしない辺鄙な地だが、かえってそれが旅情を擲る。客は私一人だけで、大分県の教員汚職問題に関心を持つご主人と 1 時間くらい話し込み、20:00 に床に就いた。もう一度、今度は妻を連れて訪れたいと思わせる場所であった。